

枚方市観光まちづくり提案書

令和3年度 近畿観光まちづくりコンサルティング事業

2022年3月

近畿観光まちづくりアドバイザー会議

はじめに

近畿観光まちづくりアドバイザリー会議では今年度、重点支援地域として大阪府枚方市を選定し、現地視察や会議および、地元のステークホルダーの皆様にお集まりいただいた地域側検討会を通じて、枚方市の観光まちづくりの方向性、戦略・戦術等を検討してまいりました。

そのなかで私たちは、枚方市が大阪市や京都市、奈良市といった日本を代表する観光地に近接しアクセスがいいこと、40万人もの住民がいて観光まちづくりの気運が高まりつつあること、観光資源が多岐にわたり豊富にあることを確認しました。立地、人、モノともに恵まれた地域であり、すでにひらかたパークや菊といった全国的な知名度のある資源が存在していることから、これらを連携させることで観光まちづくりがさらに進展するのではないかと考えました。

例えば、観光まちづくりに共感する市民を増やし40万人・20万世帯の半分、10万世帯が1年間で5回、親せきや知人・友人を誘うだけで50万世帯が動くことになります。それは「市民が招かざるを得ない、市外の人たちが訪れざるを得ない」環境にほかならず、市民と観光客が共感しながら価値を創造することと仮定しました。枚方市の観光まちづくりは「共感空間」を市民と観光客で共創し、その手段として「くらわんかツーリズム」の確立を指標として示しました。

2025年の大阪・関西万博や枚方市駅前再開発を控えている今、枚方市が「共感空間」の観光まちづくりに取り組む絶好の機会と考えています。本提案書がそのきっかけになれば幸いです

近畿観光まちづくりアドバイザリー会議 一同

現地視察報告

1. 地域資源の評価

視察した地域資源について、観光資源としてなりうる可能性、旅行商品化に対応できるかを評価し星数によって表しました（3つ＝歓喜！、2つ＝可能性大、1つ＝条件付で可能性あり、ゼロ＝可能性なし）。以下のポイントは、委員の星数の総和を視察した人数で割り算しました。黄色で囲んだ箇所は評価からの提案です

① **枚方市駅周辺**（枚方市駅・T-SITE・観光ステーション） **1.58**ポイント

プラス点＝◆再開発：宿泊施設のオープンや駅前広場の拡張により賑わい創出

◆市駅：「北口は観光客、南口は定住者の玄関」「駅周辺にほとんどの都市機能あり、来訪者にも便利」

◆T-SITE：「観光客と地元民の接点」「おしゃれで洗練された居心地の良い空間」「駅とデッキで直結し便利」

◆観光ステーション：「収益事業に力を入れている」「観光拠点の機能」

マイナス点＝◆枚方市駅：「観光の起点になっていない」「多言語化の遅れ」

◆T-SITE：「来訪要因になるか疑問」

◆観光ステーション：「中央改札側より人通りが少なく、暗いイメージ」

⇒・駅前～淀川の拠点化、ホテルや商業施設オープンによる旅行の情報発信拠点に（メディカルパック＜医療ツーリズム＞と枚方宿、淀川舟運を組み込んだツアー）

・T-SITE：「枚方を最初に学ぶ場」「転入促進支援の機能」「街歩きの拠点」

・観光ステーション：「鮮度の良い仕掛け」「中央改札口から分かりやすい表示」「地場の特産品や農産物などの販売」「T-SITEとの連携」



現地視察報告

1. 地域資源の評価(2)

②枚方市総合文化芸術センター

2.42ポイント（最高値）

プラス点＝「大・小ホールに美術ギャラリーが併設されたアート空間」「京阪沿線でも大きなホール」「京都・大阪の中間で、立地良く好アクセス」
マイナス点＝「周遊や余韻を楽しむ仕掛けが必要」「施設間競争」

⇒「シアターアンドレストランなど受入態勢の充実」「周辺への誘客」
「文化芸術（ART）のまちとして枚方のイメージアップを図る」
「枚方市ならではの演目」「関西医大・京阪との連携による学会誘致」



③枚方宿

2.29ポイント

プラス点＝「2駅間の散策にほどよい距離」「くらわんか五六市の定期開催」「地元の熱心さ」「老舗や個性的な店舗の存在」「淀川舟運の発展性」
マイナス点＝「交通量」「街道としての統一感の欠如」「休憩所・トイレの少なさ」

⇒車の制限など歩き観光の環境整備
古民家等を活用した宿泊や店舗などレトロ・モダンな重点エリア形成
VRによる街並み再現や着物レンタルなど付加価値
くらわんか舟の活用や名物ガイドの育成
東海道56番目の宿場町としてプロモーション
観光交流拠点施設への休憩場所と物販コーナーの設置



現地視察報告

1. 地域資源の評価(3)

④ 枚方市立鍵屋資料館

2.09ポイント

プラス点 = 「枚方宿のシンボル」「大規模で歴史を感じられ趣のある建物」「ユニークベニュー」「イベント可能な大広間」
マイナス点 = 「資料館だけではもったいない」「アトラクションなど、観光につながる取り組みが不足」

⇒万博を見据えた淀川舟運との関係強化

イベント会場としての活用

食事、土産物販売などによる消費の取込

当時の食や宿泊の体験を「鍵屋」として売り出す

鍵屋別館など周辺店舗との連携

「着物レンタル」「宿泊受け入れ」などプログラムの充実



⑤ 割烹 藤

1.67ポイント

プラス点 = 「ごんぼ汁など味」「貴重な食事施設」「団体受け入れが可能」

マイナス点 = 「特徴づけ」「ターゲットが中途半端」

⇒テイクアウト

ごんぼ汁などの枚方名物としてのブランド化

まち歩きの3時間コースで、ツアー商品化



現地視察報告

1. 地域資源の評価(4)

⑥ ひらかたパーク

2.36ポイント

プラス点 = 「高い知名度と集客力」「菊人形の希少性」「パンサーズなどとの地域連携」
マイナス点 = 「飲食との連携欠如」「若年層向けアトラクションが限定的」

⇒「昼はファミリー層、夜は若者のターゲット細分化」
「知名度の高い菊人形の復活」「レトロ感を前面に」
「年間パスポート、当日入園券の保持者に地域連携の特典」

⑦ パナソニックアリーナ

1.73ポイント

プラス点 = 「ファンの存在」「地域との一体感」
マイナス点 = 「施設の老朽化」

⇒女性ファンを意識した施設整備
地域連携による観光との連動
市民対象のファンクラブ創設など、地元ファン拡大
合宿誘致



現地視察報告

1. 地域資源の評価(5)

⑧ 穂谷の里山

1.64ポイント

プラス点 = 「お花摘み体験」「にほんの里100選の原風景」「イチゴ狩り農園の立地」
市街地から30分の好立地
マイナス点 = 「廃土の山の景観」「枚方ならではの感じない」

⇒「オールシーズンのお花摘みや収穫体験のプログラム化」「都心から近い里山体験」
「お茶の京都エリアとの連携」「地元農家と連携した農業体験」
「枚方ブランドの農産品」「市民、市内学校・保育園を対象に活性化」

⑨ 百済寺跡

0.92ポイント

プラス点 = 「歴史上の重要性」「現存し触れることができる礎石」「再整備の完成を期待」
マイナス点 = 「建造物等が無く、インパクトに欠ける」「奈良・平安時代当時の様子がイメージしにくい」

⇒AR、VRなどデジタル再現環境や体験メニューを付加
七塔伝説と連携した歴史的なストーリーとして展開
市民にとってのわが町の誇りとして情報発信



現地視察報告

2. 現地意見交換会の概要

現地視察に続き、意見交換会を実施しました。伏見隆市長をはじめ枚方市関係者の意見の概要を記載します。

【ご出席者】 伏見隆（市長）▽長沢秀光（副市長）▽武田俊哉（市観光にぎわい部長）▽西村良成（市文化観光協会事務局長）▽田中睦彦（枚方観光ボランティアガイドの会会長）▽茨木昭雄（枚方宿地区まちづくり協議会事務局長）▽岡田洋（京阪ホールディングス企画室事業推進担当課長）▽中田貴巳（大阪水上バス船舶業務部課長）▽岡本敏治（ひらかたパーク園長）▽市野淳也（カルチュア・コンビニエンス・クラブ営業企画リーダー）＝以上、敬称略。肩書きは当時のもの



- ・豊富な観光資源を生かし、地域活性化と経済効果を
- ・大阪・関西万博が開催される2025年がターゲットイヤー
- ・ビジネスとして成り立つ観光を指向

- ・経済的な裏付けを持った観光
（長沢副市長）

地域連携の萌芽

- ・淀川を基軸に広域連携（文化観光協会・西村さん）
- ・ものづくり企業をつなぐ連携（観光にぎわい部・武田さん）
- ・歴史散策やJAZZで枚方市と連携（京阪HD・岡田さん）
- ・ひらパーを地域連携のハブに（ひらパー・岡本さん）

賑わいつくり

- ・「お帰り道」「夜市」等の復活で、ひらかたパーク周辺に昔日の賑わいを復活（枚方宿・茨木さん）
- ・ここにしかないものの価値を伝える（T-SITE・市野さん）
- ・安心安全で近距離のガイドコースを設定（ボランティアガイド協会・田中さん）

連携（資源・人・モノ）を強化し2025年に結実するために

現地視察報告

3. 枚方市全体の評価

多くの委員が枚方市の「プラス点」として①大阪・京都の中間に立地するアクセスの良さ②集客施設が枚方市駅～枚方公園駅間に集積していること③淀川舟運の可能性の高さを評価しました。

一方、アクセスの良さを諸刃の剣であることや、地域内連携の不足、食・特産品の欠如（観光消費を促す仕掛けが乏しい）、観光まちづくりの核となる組織がないことを指摘する委員も少なくありませんでした。

プラス点（強み）

- ☆交通アクセスの良さ（大阪・京都の中間）
- ☆集客施設が集積している
- ☆淀川舟運の可能性

マイナス点（課題）

- ★アクセスの良さ（通過点の懸念）
- ★地域内連携の不足（観光資源が孤立）
- ★食・特産品の欠如（観光消費を促す仕掛け）

現地意見交換から

- 【市長】 2025年を見据えた経済効果を生む観光まちづくりの進展
- 【文化観光協会事務局長】 淀川機軸にプラットフォーム
- 【ひらかたパーク園長】 ひらパーを“地域のハブ”に

「プラス点」をさらに伸ばし、「マイナス点」の洗い出しと改善策の検討＝方向性

- ・ **観光動線とエリアの重点化** 集客力・知名度のある施設からの動線により、重点エリアを定めて東海道枚方宿を活性化（人の流れをつくる）
- ・ **「枚方ならではの（くらわんかツーリズム）」の創出** 淀川舟運の活用と食資源の開発（ごんぼ汁、くらわんか餅からの拡がり）
- ・ **マイクロツーリズムの確立** 市民、周辺地域からの誘客を図るプログラムづくり

観光まちづくりの突破口

- ・ **枚方宿**
街道散策の楽しみ（町家等の保全・活用、五六市拡充）の創造
- ・ **淀川舟運**
主要来訪ルートにする商品化、舟着場から各施設へのアクセス性の向上
- ・ **穂谷の里山**
里山・農業体験プログラムの充実、土砂撤去

地域側検討会

地域側検討会の概要

現地調査、アドバイザリーの結果を共有し、地域の意見を収集のうえ本提案書に反映させたことから検討会の概要を記載します

【現地ご出席者】 長沢秀光（副市長）▽黒川清（市観光にぎわい部次長）▽辻雅由（市観光交流課長）▽西村良成（市文化観光協会事務局長）▽田中睦彦（枚方観光ボランティアガイドの会会長）▽茨木昭雄（枚方宿地区まちづくり協議会事務局長）▽岡田洋（京阪ホールディングス企画室事業推進担当課長）▽中田貴巳（大阪水上バス船舶業務部次長）▽岡本敏治（ひらかたパーク園長）▽北村泰広（カルチュア・コンビニエンス・クラブ営業企画リーダー） =以上、敬称略

資源の自己評価

【T-SITE】

- ・ターゲット
子ども、若者、子育て世代
- ・プラス点
駅近、枚方市のランドマーク

【枚方宿】

- ・ターゲット
シニア層、若年層（五六市）
- ・プラス点
歴史を感じる場所、賑わい（五六市）

【パナソニックアリーナ】

- ・ターゲット
ファミリー層、独身女性
- ・プラス点
コアなファン、日本代表選手が多数

【ひらかた観光ステーション】

- ・ターゲット
中高年（60代以上の男女）
- ・プラス点
マンツーマンによる案内、物産の販売

【枚方市立鍵屋資料館】

- ・ターゲット
シニア、教育旅行
- ・プラス点
歴史文化を学ぶ唯一無二の資源

【穂谷の里山】

- ・ターゲット
40～60代男女
- ・プラス点
ハイキングコースの充実

【枚方市総合文化芸術センター】

- ・ターゲット
全世代（演目によって異なる）
- ・プラス点
最新ホール、駅近

【ひらかたパーク】

- ・ターゲット
ファミリー層、全世代
- ・プラス点
知名度、枚方のランドマーク

【百済寺跡】

- ・ターゲット
シニア
- ・プラス点
歴史好きにアピールできる特別史跡

地域側検討会

検討会意見から（抜粋）

住みよいまちをアピール

- ・枚方はとても過ごしやすく、居心地が良く、何か楽しいことがある（ひらパー・岡本さん）
- ・枚方のライフスタイルを提案（T-S I T E・北村さん）

連 携

- ・「おかえり道」復活、「パンサーズ五六市」、パンサーズ後援会（枚方宿まちづくり・茨木さん）
- ・「菊」をパーク外でコンテンツ化（ひらパー・岡本さん）
- ・市内大学との連携（京阪HD・岡田さん）
- ・市内資源のインフォメーション機能を充実（T-S I T E・北村さん）
- ・天野川ランで交野市と連携（同）

観光資源開発

- ・「五六の灯り」「パンサーズ応援してんDAY」（枚方宿・茨木さん）
- ・古民家で地元食材の料理、河川公園でのアクティビティ（市観光交流課・辻さん）
- ・映画、ドラマの舞台（ボランティア・田中さん）
- ・河川で防災教育（観光協会・西村さん）



課題

- ・地域ならではの観光コンテンツの不足（ひらパー・岡本さん）
- ・舟運と観光資源をどうつなぐか（水上バス・中田さん）
- ・枚方宿と淀川が分断されている（京阪HD・岡田さん）
- ・京街道に説明板、案内板が少ない（ボランティア・田中さん）
- ・国の特別史跡「百済寺跡」のPR不足（同）
- ・駐車場不足で車のアクセスが悪い（観光協会・西村さん）
- ・観光ステーション、観光案内所の立地（田中さん、西村さん）
- ・食資源の不足（市観光交流課・辻さん）

観光まちづくりの方向性を考える

枚方市が目指す観光まちづくりとは…

現地視察、会議、地域側検討会での意見交換等を経て、またコロナショックにより全世界で観光が停滞している中、後発組の枚方市が目指すべき観光まちづくりについて考えてみました

市 民



ずっと暮らしたい
住みよいまち ♥

観光客（来訪者）



何度も訪れたい
居心地のいいまち ♥

- 地域側検討会で指摘があった市民が感じてる「住みよいまち」を枚方市の観光まちづくりの方向性と合致させるため、住みよいまちを観光客側の視点で「居心地のいいまち」につなげていくことと仮定し考えます

市民と観光客をつなぐ観光まちづくり

- もっとも身近な観光客は市民と捉え、誰もが居心地がよくワクワク楽しくなれる**共感空間**をデザインします



共感空間を観光まちづくりでデザイン

- ウイズコロナ期の安心安全を前提に、コロナ禍に伴う、働き方や暮らし方、また観光に対するニーズの変化など世の中全般が大きく変わり、人流・交流が抑制されている中で、「共感」を取り戻す観光まちづくりを実現します

観光まちづくりの方向性を考える

共感空間をデザインする

共感空間をつくる

リーダー、担い手の存在

- 現地視察、地域側検討会を通じて、枚方市の観光まちづくりをけん引するリーダー、熱い思いで取り組む担い手の存在を確認

+

ファン（枚方愛の人）の存在

- パンサーズファンクラブ登録者（約3千人）
- ひらかたパーク年間パスポート（約1万人）
- くらわんか五六市に定期出展する人たち

枚方市内の5大学

- 日本各地はもちろん海外からの留学生が存在

- 枚方市にはすでに、観光まちづくりのリーダーや担い手となり得る市民が存在し、パナソニックパンサーズのファンクラブやひらかたパーク年間パスポート保有者、くらわんか五六市に定期的に出展している市外の人たちも存在し、さらに全国、世界各国から枚方市で学ぶ大学生たち…共感空間づくりの素地があります！

共感者を増やすために

- 「住みよいまち」＝「居心地のいいまち」の徹底
- 市民と観光客の協働によって「共感空間」を共創
- 招かざるを得なくなる、訪れざるを得なくなる「共感空間」をデザイン

共感を得て、その輪を広げる観光まちづくり

観光まちづくりの方向性を考える

共感を生む観光まちづくりのデザイン

共感できる旗印をつくる

共感の輪を広げるためには、「この指とまれ」的なシンボル（旗印）が必要だと考えます
その要件として

- ① 市民も観光客も共有でき、枚方市を想起できること
- ② 枚方市らしさ、唯一無二性を有していること

枚方市観光まちづくりの旗印

- 「住みよいまち」＝「居心地のいいまち」という**枚方版ライフスタイルツーリズム**
- 市民も、市外から来訪する観光客もワクワクさせる**枚方版ウルトラマイクロツーリズム**
- 市民が感じる枚方らしさ、観光客が感じる枚方市らしさの融合＝**枚方観光のイメージ**

—これらを包含したフレーズが考えられます

「くらわんかツーリズム」

「くらわんか」

- くらわんか舟として枚方の歴史、文化を表している
- くらわんか餅、くらわんか五六市、くらわんか花火大会、くらわんこ等すでに枚方市内で定着している
- 「食べなさい」という意味のほか、加わらんか＝参加しないかという呼びかけにも通じる
- 「分け合う・助け合う」など枚方市らしさあふれるSDGsメッセージとしてまず市民で共有し来訪者とも共創していく



「くらわんかツーリズム」による観光まちづくり

観光まちづくりの方向性を考える

共感を生む観光まちづくりのデザイン

持続可能な観光まちづくりに

「くらわんかツーリズム」を旗印として観光まちづくりを推進する上で、共感の輪を広げるためにも持続性を担保した取り組みとしなければなりません。

そのためには

- ① 継続的に取り組むことができる体制・組織づくりと、次代を担うリーダー、プレーヤーの育成
- ② ひらかたパークなど既存施設、イベント・資源の集客力の活用と波及
- ③ 共感を収益とするための観光資源のアトラクション化
- ④ 経済循環を生むための域内および域外連携



「くらわんかツーリズム」で持続可能な観光まちづくり

- A) 観光まちづくりを主体的に取り組み、地域側検討会のメンバーに加えて地域内外の共感者、学生らで構成するDMO
- B) ひらかたパーク、菊を枚方市のイメージリーダーとして「観光まちづくりのハブ」に
- C) 資源の魅力をストーリーや連携によって深掘り、顕在化させ「観光アトラクション」に編集
- D) 京街道（東海道）をショーケースとして市内農産物・製造物のアンテナショップとし、グリーンツーリズム・産業観光への誘導



枚方市観光まちづくりの戦術

くらわんかツーリズムの推進

初動「黎明期」（2022年度から）

くらわんかツーリズムは、共感空間を生む観光まちづくりの最大の手段ですが、複数の委員から「くらわんかは分かりにくい」「一般化していない」という指摘もありました

すでに「くらわんか五六市」「くらわんか花火大会」「くらわんこ」など、くらわんかを冠したイベント等は存在しているものの、さらに「くらわんか」を定着、普及させ、枚方市＝くらわんかをイメージさせることが重要です

一方で、枚方市のイメージは「ひらかたパーク」「菊」であり、枚方と聞いて純粋想起させるものがあることは大いなる強みと指摘する委員も少なくありませんでした。

そのため…



を「くらわんかツーリズム」（共感創造の旅）の突破口と仮定します！

たとえば…

- ひらかたパークに「くらわんかデー」を創設してもらう
 - 「お帰り道」を「くらわんかお帰り道」とし、枚方宿や枚方市駅へ誘導する動線をつくる
 - 「菊花展」にくらわんかを冠してもらう。秋の枚方宿を「くらわんかマムストリート」とする
- …などなど

ひらかたパーク、菊を核に地域をアトラクション化



くらわんかを世界に通じるKurawanka！に

さらに…

- ◆ 淀川舟運に伴う「くらわんか舟」復活
- ◆ パンサーズ／F C ティアモのホームゲームに「くらわんかマッチデー」

くらわんか露出の徹底

くらわんかツーリズムの推進

成長期①（2023年度～）

共感空間を生むために、くらわんかツーリズムの重点地域を設定し推進します



出典：Googleマップ

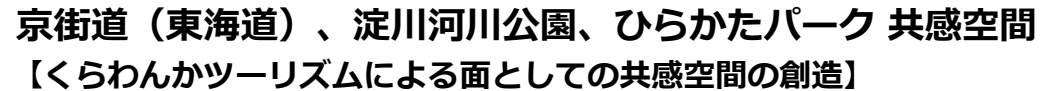
京街道（東海道）、淀川河川公園、ひらかたパーク 共感空間 【既存イベントの拡充】

- **くらわんか五六市** = 出店者ゾーニング▼テーマの設定▼枚方市のショーケースとして市内物産の直販▼「お帰り道」との連携（夜間開催）▼ひらパー、総合文化芸術センター来場客への特典付加
- **菊花展** = 枚方宿くらわんかマムフェスティバルとして、菊人形の特別展やライトアップ
- **淀川舟運** = 「くらわんか舟」の再興、定期観光船「淀川浪漫紀行」との連携、「いちご舟」（穂谷でイチゴ狩り）、「パンサーズ舟」、「ひらパー舟」、「五六舟」、「音楽（歌舞伎）舟」（総合文化センターのアプローチに）などのツアー企画

【くらわんかツーリズムによる面としての共感空間の創造】

- **くらわんかメシ** = 「あがら井」（和歌山県田辺市）のように、個店のオリジナル性を前面にした食事メニュー▼テーマの設定▼枚方市のショーケースとして市内物産の直販▼「くらわんかクーポン」による回遊性の創造と既存イベントの滞在時間の向上▼ひらパー、総合文化芸術センターの来場者への特典付加 **重点地域限定の共感空間での滞在による消費額の増大**
- **京街道の魅力増進** = 鍵屋資料館での限定宿泊体験（民泊誘致を含めて）▼新設予定の「交流拠点施設」をメインにした京街道のショールーム化 = 市東部の農業体験や工業団地の産業観光への誘導、受付機能
- **エリア連携** = お帰り道のエリア全体への延長（ひらパーのお帰り道、総合文化芸術センターのお帰り道）

共感空間を生むために、くらわんかツーリズムの重点地域を設定し推進します



▶ **共感の河川空間づくり**＝河川敷の草刈り体験や清掃活動等をイベント化して実施▼くらわんかツーリズム楽校（後述）による河川空間活用のワークショップ▼菊、コスモスなどを植栽した河川花壇づくり▼総合文化芸術センターと連携したアート空間づくり▼淀川河川事務所と連携した防災教育空間

くらわんかツーリズムの推進

成長期③（2023年度～）

共感空間を生むために、くらわんかツーリズムの重点地域を設定し推進します



出典：Googleマップ

枚方公園、ひらかたパーク、パナソニックアリーナ 共感空間

【くらわんかツーリズムによる面としての共感空間の創造】

- **くらわんかマッチデー** = 「くらわんか」と書かれた特別ユニフォームを選手、ファンが着用▼「くらわんか！」のチャントで応援▼くらわんかグッズの販売▼アリーナ前で「くらわんかメシ」や枚方市物産コーナーを開設…など
- **観戦者の回遊性向上**（枚方公園駅の踏切を越えさせる）= アリーナで、市内飲食店で使える「くらわんかクーポン」の販売▼ひらパー時間限定チケットの特別料金による販売▼河川敷の枚方ビーチで、パンサーズOBによるビーチバレー教室…など

くらわんかメシについて 参画店舗が独自に設定したメニューで名前だけを統一。「枚方に来たら、くらわんかい！」と刺激的な惹句でアピールするが、味やボリューム、もてなしは最上級の共感メニュー。ペット向けのくらわんかメシや「くらわんかメシGP」で話題性も。東部地域の農産物を食材として用いることも推奨

くらわんかSUPについて 普段は淀川河川公園の体験アトラクションの一つだが、淀川舟運が寄港する際は「くらわんか舟」のように、Uber eatsみたいなリュックを背負って物売りSUPとして活動する

くらわんかグッズについて 市内産を基本とし竹製の食器（今年4月のプラ資源循環法）など食に関わる什器などのほか、京街道や市内で営業しているアパレル関連商品、市内特産品および6次加工品…など

くらわんかツーリズムの推進

成長期③（2023年度～）

重点地域のほか、市内に点在する観光資源を活用したくらわんかツーリズムによる共感空間創出も検討します。資源の特徴を先鋭化し、万人向けではなく、市民と観光客のマニアが交流することで高付加価値を生む“オタク化”を促し「市民が招かざるを得ない、観光客が訪れざるを得ない」社会的風潮を生じさせることを目指します

「歴史」「食」と「農」「産業」のアトラクション化

- 枚方宿等にICTを活用した「まち歩きアプリ」を導入 → デジタルスタンプラリーなど歴史散策のアトラクション化
- 東海道56次のアピール → 旧街道歩き（旧街道サイクリング）、東海道宿場町との連携 → 枚方宿を全国区に
- 天野川・七夕伝説 → 枚方～交野間の「七夕ロマンチック街道」
- 百済寺跡のアピール → 韓流スターやK-popの参拝 → AR、VRの体験 → スーパー住職
- 樟葉宮跡、今城塚古墳（高槻市）、足羽神社（福井市）などと連携し継体天皇ゆかりの地 → 古代天皇探訪を社会現象に（枚方市がリード）
- 激動の幕末、戊辰戦争の見える化 → 枚方宿～楠葉台場～淀城まで「菊」の旗を掲げて行軍体験
- 脱プラスチックのため竹等を加工する食器づくり体験（市内飲食店も使用）
- くらわんか花暦の整備＝菊（枚方宿・ひらかたパーク）、コスモス・ひまわり（穂谷）、菖蒲（山田池公園）など → 花印状など花めぐり、花めぐり弁当
- 収穫など農業体験 → 市東部エリアに道の駅など農業体験交流施設を整備
- 枚方宿の特産物ショーケース化・淀川河川公園のピクニック体験 → 市内産農産物の展示販売および「弁当」による6次産業化
- 収穫体験・食器づくり・調理体験・飲食をセット → スーパーくらわんかメシ体験
- 京阪電車や市内の産業を産業観光化 → 観光交流拠点等で産業に触れる機会づくり

◆観光ステーションの機能強化

くらわんかツーリズムの窓口拠点、市内観光の案内とサポート

- 託児施設、荷物預かり
- 枚方市駅の目立つ場所に移転
- 新観光交流拠点、枚方公園駅にサテライトステーション開設の検討

くらわんかツーリズムの推進

成長期④ スポーツツーリズム（2023年度～）

Vリーグのパナソニックパンサーズ、JFLのFCティアモ枚方と2つのプロスポーツチームがあり、東海大学付属大阪仰星高校をはじめとした高校ラグビー強豪校など、スポーツも共感空間をつくる枚方市の大きな強みです。

市内と市外のファンや愛好者はもちろん、誰もがスポーツを通じて、共感空間を創造することを考えます

共感媒介としてのプロチーム（みる・支える）

- くらわんかマッチデー → 市民、市外ファンの交流を促す
- 期間限定で「パナソニック・くらわんか・パンサーズ」に → 「サーブをくらえ！」
- FCティアモが加盟するJFLにカズが加入（2022年度）→ ティアモ露出のチャンス
- ファンクラブ → くらわんかグッズのプレゼント
- 両チームのユニフォームに「くらわんか」のロゴを
- パンサーズ、ティアモファンのたまり場づくり → 飲食店・民泊等の聖地化

共感媒介としてのプロチーム（する）

- バレーボールやサッカーの体験教室（出前授業） → 市民や子ども中心
- 合宿誘致 → 市外の高校などのバレーボール、サッカーの合宿（指導付き）
- 「枚方ビーチ」の活用 → くらわんか杯ビーチバレー・ビーチサッカー大会
- 市内小学校等での「パンサーズ杯」「ティアモ杯」の開催

- ◆ 「する」スポーツとしては、淀川河川公園の活用も十分に考えられます。関西でも有数のサイクリングエリアとしての自転車、親水体験としてのカヤックやSUP、ランニング、くらわんかスロン（SUP&自転車&食べ歩きのレース）等
- ◆ 交野市等と連携したトレイルランニング、天野川下り（タイヤチューブ）など
- ◆ 障がい者も楽しめる「パラスポーツ」も普及



共感を得やすいスポーツの魅力を最大化します！

くらわんかツーリズムの推進

発展期①（～2025年度）

大阪・関西万博が開かれる2025年までに淀川大堰閘門が完成し、枚方市駅再開発の一環でホテルもオープン予定です。くらわんかツーリズムにとっても2025年は大きなターゲットイヤーになります。この項では、2025年に共感空間としての観光まちづくりが一定の成果を得て、くらわんかツーリズムによって市内観光資源のアトラクション化が進み観光プログラムが充実、ホテルのプランにも組み入れられるための方策を考えます

観光まちづくりを主体的に推進する組織

- 観光まちづくりは一朝一夕でできるものではなく一定の期間を要し、明確な理念やビジョンのもと事業の継続性が欠かせません。市民主体の観光まちづくりプラットフォームの設立が求められます
- また、市内外に共感者を広げていくためにも収益を生み物心両面で共感者に還元していく仕組みを構築しなければなりません

そのため、私たちは

DMOの設立

を念頭に置いて、観光まちづくりを推進する組織の必要性を感じています

- 現地視察および地域側検討会で、市内で熱心に、かつ戦略的に取り組んでいる人たちが多くいることを確認したものの、当事者間での情報共有ができていない（その状況で連携は無理）
- 共感者を増やすためには、連綿と続く観光まちづくりの人材を育成しなければならない。「くらわんかツーリズム楽校」（後述）を運営する組織が必要

【枚方市におけるDMO設立構想】

①枚方市にとどまらず広域連携

枚方市の観光資源は枚方宿（東海道56次）、淀川（舟運・くらわんか舟・高槻にも伝承）、全国区の人気を誇るパンサーズやJリーグ目前のティアモなど広域性を有しています。交野市や高槻市、寝屋川市など広域DMOとし、枚方市がイニシアティブをとるべきだと考えます

②収益事業を推進し経済循環を生む

くらわんかクーポン、くらわんかグッズなど域内の事業者と連携した収益事業を創出、域内経済が循環していく構造をDMOがリードしていきます。また観光客誘致や収益事業のため「共感マーケティング」を推進していく必要もあると考えます

くらわんかツーリズムの推進

発展期②（～2025年度）

くらわんかツーリズムの共感者（観光まちづくりの理解者）、および次代のリーダーや担い手を育成し、観光まちづくり組織の持続的な発展ならびに観光まちづくりを持続可能とするため、枚方市の観光まちづくりに関わる人たちが集い学ぶ「くらわんかツーリズム楽校（仮称）」を発足します

くらわんかツーリズム楽校

市内在住の子どもたち

【小学生～中学生】

- 校外学習で「くらわんかツーリズム」を体験する
- 市内45小学校に「郷土探究くらわんかクラブ」をつくり、くらわんかを授業名にする。隣接校区と交流する時間、発表会などの時間を設ける

【高校生】

- 2022年度から「総合的な探究の時間」が高校のカリキュラムにおいて義務化される。市内の高校に働きかけ、枚方市の「観光まちづくり」「くらわんかツーリズム」を教材としてもらう

市民（老若男女）および市外の共感者

- くらわんかツーリズムの座学、体験会
- 既存アプリ「旅のしおり」活用による商品化。ガイド・案内人は楽校生が務める ⇒ 旅行会社商品のOEM化

市内在住の大学生

【市内5大学との連携】

- 市内イベント、ツーリズム化を大学生と協働する環境づくり
- 「くらわんか学」の出前講座による観光まちづくりの担い手、学生ガイドの養成
- SNSなど情報発信事業の委託

くらわんかツーリズム楽校について

【運営主体】 前述のDMOまたは文化観光協会

【カリキュラム】 DMO関係者、近畿観光まちづくりアドバイザー会議の委員による策定。講師も同様

【くらわんかアンバサダー】 くらわんかツーリズム楽校の卒業生全員を観光大使（アンバサダー）とする。市民は知り合いに、留学生は自国で積極的にアピール

おわりに

本会議は吉兼座長以下、シンクタンクや旅行会社、運輸機関、観光関連団体関係者などで構成し、近畿運輸局ならびに近畿地方整備局も名を連ねています。

この1年あまり、枚方市の観光まちづくりを現地視察や複数回の会議、地域側検討会などを通じて、枚方市の資源の可能性、熱心に取り組む市民の皆さんの存在など、今後の枚方市に対して大いに期待を抱きました。

私たちは、枚方市観光まちづくりの「共感者第一号」として、今後ともくわんかツーリズムによる「共感空間」の創出にご協力していくことをお約束します。本提案書が、枚方市の観光まちづくりが少しでも進展する手助けになれば幸いです

近畿観光まちづくりアドバイザリー会議 一同